

# 新島村 議会だより

第 81 号  
平成 29 年 6 月



## 平成 29 年第 2 回定例会（6 月） 会期日程

第 2 回定例会は平成 29 年 6 月 13 日から翌 14 日まで開催され、一般会計補正予算、新条例、専決処分の承認などを審査しました。

## もくじ

一般質問から	2
議員の月間リレー日記	5
副議長の目ランド	6
伊豆市・天城温泉プールの視察	8
町村議会議員講演報告	10
議長の四季報	12
編集後記	12

# Q & A 一 般 質 問

議員は「住民に代わって」村の行政全般に対して、事務の執行状況や将来の方針、計画あるいは疑問点などについて所信や疑問をたずることができます。

表紙は語る

好天にめぐまれた5月のゴールデンウィークの一日、新島・羽伏浦に忽然と現われた祝祭気分満載の一角。

メインゲート手前の駐輪場周辺にファーストフードのハンバーガーの店やドリンク類を扱う店が軒を連ね、軽快な音楽をバックにDJ（ディスクジョッキー）が雰囲気盛り上げて

いた。これに呼応するかのようには観光客が吸い寄せられていた。

せっかくの祭日に何も無いのは淋しいと、地元若者たちが発奮し、企画し、実現。あいにくサーフィン日和とはならなかったが、若者たちの心意気に花マル。

山本均 議員



ないか？

**答** 現在、新島・式根島観光協会への

届出宿泊施設は新島23件、式根島29件となっている。1日当たりの宿泊定員は、それぞれ約550人、約450人となる。

宿泊施設はこれだけののか？

**問** 宿泊施設の不足の解消をどう考えているのか？

村の支援が必要では

施設の減少の原因には様々な要因があるが、高齢者でも宿が経営できる取り組みや新たな宿の展開など関係団体と協議を進め、誘客を図っていききたい。



村内の民宿も減ってずいぶん淋しくなった。

### 議会にいきかう言葉

**6月定例会では専決処分が比較的多い。専決処分とは何ぞや？モノの本によると議会が決める代わりに村長が決めること、とある。ただし、次の議会で承認を得なければならぬ。**

村長の判断で決めるのだからその要件は厳しい。何通りかあって一番符合するものが、急ぐ必要があるが、議会を開く間が

ないことがはっきりしているとき。現実の場面では法律の改正がありこれに応じて村の条例を変更する、これがほとんど。今回は2件あった。考えてみると村長が先に決めてしまうのなら先決処分とすればすっきりすると思うが、どうだろうか？それともこれではあまりにもあからさまになってしまっ？

**総合戦略の取り組み姿勢は？**

**問** 村の総合戦略に対する取り組み姿勢、本気度を伺う。

**答** 現状のまま推移すると人口ビジョンの目標年である平成72年の1510人を目指す

すには非常に高いハードルとなる。このため産業振興による雇用環境の創出や転入の促進など、各種政策に取り組んでいくことが必要である。

総合戦略を意識した事業は村が取り組んでいる全ての事業がこの

戦略に当てはまる。

**新島の夏季売店はどこ？**

**問** 今夏の浜の売店対策ではどこをどのように改善して進歩させたのか、お訊きする。

**答** 平成20年度来、申込者がなかったが、今年度は受付期間内に1件の申し込みがあった。

浜の売店の必要性は感じるが、ホスピタリティを前面に出して村が何らかの負担をすることは現在のところ考えていない。

**光回線の島内整備は？**

**問** 光回線島内網整備事業の続きと事業工程を時系列に沿って説明願いたい。

**答** 5月15日着手し現在、実施設計をし



砂浜は広がったが、果たして観光客は……（シーズン前）。

ている。7月中に工事発注を予定し、平成30年3月末の完了を目指している。この間、光ブロードバンドサービス施設の設置条例を、

9月又は12月定例会に提出したい。

また平成30年4～6月に通信事業者が基地内工事を実施し、7月から光加入手続き及び

通信事業者サービス開始を目指している。  
住民への周知は8月後半から9月に住民説明会、ホームページへの掲載及び広報にいまお知らせ版を予定している。

木村 諭史 議員



観光振興 外国人観光客受け入れのロードマップの作成提案

問

東京オリンピックピックを目指して外国人観光客受け入れの機運が高まってきている。新島村でも小学生の英語キャ

しまっぷりでの英会話補助機能



飲食店、買い物、困ったときなど、状況ごとに分かれた英会話事例が掲載されています

ンブ、商工会での指さし英会話を用いたおもてなしセミナー、しまっぷり（島アプリ）には英会話の指さし事例を掲載するなどの対応がなされている。そこで、村長が課を横断して全体を見渡し、島内の諸事業を組み合わせた指針（ロードマップ）を作成・公表しては

答

ロードマップは確かに見やすくわかりやすい。9月までに各課と前向きに検討していきたい。今後、外国

人観光客の受け入れに向け、役場内の連携を図りながら、対応を強化していくとともに、商工会や観光協会と連携して、『東京の島』として広くPRしていきたい。

島アプリ（しまっぷり）の完成度と今後の展開について

問

地方創生に係る昨年度の新事業であるが、写真や地図情報の誤植が多く、完成度に疑問がある。また、島内関係者による更新体制・予

しまっぷり（島あぷり）の画面例



アクティビティ（体験）、食事、買い物などの大項目に分かれ、中項目ではサーフィン、釣り、温泉など写真を見ながら選べます。最後にスポットを指定すると、地図と情報が表示されます。

算組みがされているか？アンケート調査など戦略的に活用していく指針があるか？

答

短時間での事業実施および、低速な通信インターネット環境により、オフライン仕様とせざるを得ず、さま

さまざまな問題もある。6月7日・8日にアプリの管理運営の説明会を行い、今後の改善点や外国人観光客対応の諸課題についても意見交換を行った。

現在でダウンロード数は399件で、日本からのアクセスが98%となつて

いる。業者からの手直し・指導は行っているが、今年度は予算はつけていない。将来的には観光ガイド機能の強化やオンライン化も検討していきたい。

前田 卓秀 議員



新島村定住化体験住宅は募集しているか？規定はあるのか？

問 新島村定住化体験住宅の開始は？

募集はしているのか？規定はあるのか？

答 本年7月1日より運用開始する。応



島外からの定住者のゲートウェイ

募は、ホームページへの掲載と、11月に実施予定の定住化イベントであるアイルンダーでの告知を予定している。また規定は、4月1日付で策定

しているが、入居の申請は新島への志望理由などの聞き取り、体験後にレポート提出などデータを蓄積し、活用していく。

5月 議員月間リレー日記

●青沼 喜八 1日(月) 7日(日) 前日に同じ。

今年は定置網の仕事がないため、ゴールデンウィーク期間は来客の送迎に多忙をきわめる。午前中は客の送迎。午後は畑の整地作業。 ●森田 一 8日(月) 昨年4月から若郷妙蓮寺の総代を務めるが、2年半の住職不在に苦慮。 昨年、住職候補者となった吉田上人を、長栄寺にお邪魔して住職就任書類を作成する。



2日(火) 友好村町盟約の日の出町から町議会議員15名が来島。 3日(水) 日中は村内視察。夜6時から村長、副村長、村議員等で歓迎の懇親会。 4日(木) 10日(水) 日の出町議員一行は式根島を視察し、そのまま高速船で帰る。雨の中お疲れさまでした。

11日(木)

「特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する特別措置法」の意見書(木村議員作成)を読む。

今後、経常委で検討し、執行部と調整後、取りまとめとなる見込み。

12日(金)

死者の連絡を受け、葬儀執り行ないの次第を長栄寺に要請。

13日(土)

葬式の準備と火葬、夜は通夜に出席。



14日(日)

早朝から北朝鮮のミサイル発射のニュースを各メディアが報道。聞く耳を持たない独裁国家に恐

怖を感じる。

午後から葬儀に参列。

\* \* \*

15日(月)

東京都町村議会議員研修に上京。

16日(火)

アジュール竹芝で午後3時半から前述の研修会。終了後、町村議員の懇親会。

17日(水)

村議会の視察研修。朝8時20分に島しょ会館を貸切バスにて出発。伊豆市へ向かう。

18日(木)

天城温泉プールを視察。夜、東京へ戻り一泊。

19日(金)

朝、高速船で帰島。

\* \* \*

●山本 一磨

20日(土)

観光協会事務局で温泉、海浜等のインフラ整備の意見交換。

船客待合所の完成後の

使用に関する諸課題を予定者から事情聴取。

21日(日)

農地法第3条の許可後の所有権移転の相談等を受ける。

22日(月)

6月8日予定の三宅都議との意見交換会の出席者等の調整。

23日(火)

眼の治療のため上京。都内にて術前準備。

24日(水)

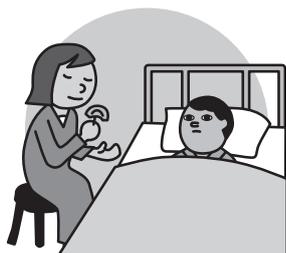
前日に同じ。

25日(木)

入院

26日(金)

退院



## アイ 副議長の目ランド

美人投票(美男子投票でもよいが)とは自分が美人だと思ふ人に投票するのではなく、世間一般に美人だと思われている人に投票する(みんなが投票するだろう人に投票する)と喝破した著名な経済学者がいた。これは経済は単に統計数字だけでなく、人々の心理的要素によって影響を受けることが多分にある、ということを書いたかったのだと思う。

なぜこんなことを思い出したかというと、今回の都議会議員選挙では都民ファーストの会が圧倒的な勝利を治めた。そして自民党所属の候補者は惨敗を喫した。どうしてなんだろう?おそらく都民ファーストの会の候補者の来歴や実績を知ってて投票した人はあまりいなかったのではないかと推測する。小池都知事の率いる地域政党だから、この一点に集約された

のではないか。選挙前からマスコミへの露出が多く、一定の流れというか、ブームを創り出していたように思える。要するに小池都知事なら東京を変えてくれる、そのためには都議会で彼女を支持する政党が過半数を占めなければならない。だから都民ファーストの会を応援しよう、そういう流れが出来上がったと言えないだろうか？

どのようにして？これが恐いところでそういう空気が情報を通じてなんとなく醸成されたような気がするのだが。美人投票と似た心理で（もちろん特定の候補者をよく知っていて信頼を寄せて投票した人もそれなりに存在したのは論を待たない）。

それから国—都道府県—市区町村の系符で政党の結びつきをどのように捉えるか、という問題がある。国と都道府県レベルでは政党とのつながりが強くても仕方がない面があると思う。特に現在の衆議院の小選挙区制を考えると都道府県議会で活躍した議員が上位を目指して国政選挙に打って出る、これは流れとして不自然ではない。だから政党を看板に掲げるには十分に意味があると思う。

しかし市区町村レベルではどうだろう？どのような政治信条を持つかにもよるが、私は必ずしも国政と同じ政党色を出す必要はないように思う。現に我が村のことを念頭に置くと政党による与野党対立なんてないし、ほとんど保守系無所属だろう。

今回の選挙は首相の対応のまずさや大臣の失言が大いに影響したと一部、報道ではあった。実態はわからないが、国と都の政党の結び付きが強ければ、そのように理解されても致し方ないかもしれない。

私たち村の議員はどういう政治的立場を取るべきか？中央の政治動向を知ることは大事なことではあるが、それよりも地域社会を基盤に日常の草の根活動に徹すること、こちらに重点をおくべきことを再認識させられた、そんな風に思っている。もっとも今回の島しょ地区の選挙結果を見ると世間の風潮とは関係なく、心配するに及ばない、そういうことかもしれない。ある意味今の強固な政治体制に有権者が息苦しさを覚え、風穴を空ける役割を都民ファーストに委ねたと言えなくもない。

いずれにしても今回の一連の動きは地方議会の議員はどうあるべきか、改めて考えさせるキッカケを与えてくれたことに感謝すべきだろう。

（副議長 山本 均）

※今号は議長が体調不良のため副議長が代わって執筆した。

## 温泉プールに新島村の未来を託す

### 伊豆市・天城温泉プールの視察

議員 青 沼 喜 六

今回の研修視察の目的は温泉を利用した温水プールによる新島村の活性化・再生の道を探ること。キーワードは少子高齢化社会にいかに対応するかということで、福祉・医療・教育・健康・観光等、様々な分野を射程に入れている。訪れた場所は伊豆半島中央の伊豆市。ここは平成 16 年に修善寺町、土肥町、天城湯ヶ島町と中伊豆町が合併して市となり、人口は 3 万 1 千人ほど。

私たち議員一行は 5 月 17 日朝、島しょ会館前を貸切バスに乗って出発。3 時間ほど走行して到着し、当日は市役所等を表敬訪問。「天城温水プール」は翌日訪れ、現場には 10 時半過ぎに着く。主管課の市の教育課の職員 2 名の案内で施設内へ入る。屋内プールを正面の高い位置からながめる観覧席（プールとはガラス板で遮へい）で話を伺った。

説明は現場の責任者である水野氏。風貌はいかにも元水泳選手らしいガッシリした体軀の年輩の男性。よく通る声で率直に運営状況等話していただいた。

氏は指定管理制度により受託会社から派遣され、施設の管理運営から指導まですべて行っている。もっとも実際の現場での指導は主に彼の息子が当たっているという。氏の話ではなぜか息子さんの方が教え方うまいようで、みなさんの上達が早いと言っていた。そのときには 13 名の中高年の女性たちがプールの中で指導に従って歩いたり体操のようなことをしていた。



施設の概要は 6 コース、25 m の競泳用プール、他に小プールと採暖浴場がある。周辺はガラス張りで天井が高く比較的明るい、放射熱がひどく冬は暖房を焚かないとやっつけられないという。41℃源泉を川向うから汲み上げ温水タンクに貯蔵し



左側の通路奥の下ったところに温泉プールがある。

た後、31.5℃にしてプールに送水する。冬場はこの温度を確保するのが難しく、追い焚きをして調整している。

この施設は昭和 53 年に開館し、40 年近く経ち老朽化が進み、近くに同様の温水プール（こちらは温泉利用ではない。合併によってプールが増えた）があることから平成 30 年末に閉館とのこと。

利用状況は年間 1 万 4 千人（料金一般 300 円、子供 150 円）で、ほとんど教室利用者などの会員で現在、大人 115 人、子供 50 人が入会している。利用時間は朝 10 時から夜 6 時まで。これは人件費を圧縮するため交代なしで丸 1 日勤務できるようにしている。

経営に関しては市から 2 カ所のプールで 3 千 4 百万円の委託料を受けるが、中々厳しく利用者の開拓で何とかしのいでいる。こういったことから光熱水費にも細心の注意を払い、電気の使用量が増える



観覧席にてまず最初に市の担当者から説明。

としょっちゅう照明を消しまくっているという。

温泉施設の修繕では硫黄やミネラル分や塩分が少ない泉質なのであまり付着などのトラブルはない。ただしポンプ（400 万円）は 10 年に一度

定期的に交換している。

以上のことから新島村にも同様な温泉を利用したプール施設の実現性を探ってみた。確かに財源等には厳しいものがある。しかしトータルとしてのコスト面から考えてみる必要があるのではないか。健康増進では医療費や保険料の削減につながるし、何よりも高齢者の生きがい対策になる。現にプールでの運動を終えて帰り支度をしているお年寄りに伺ったところ、元気いっぱい、病気一つしていないという。

また小・中学生でオリンピック候補者になるような有望な子供も育っているということだから、これこそ夢の持てる確かな存在感のある地域社会に飛躍できる可能性を秘めている。もちろん観光面からも大いに貢献できるものと確信する。

## 東京都町村議会議員講演報告

議員 木村諭史

5月16日、年に1回の議員研修として、東京都町村議会議員講演会『小さな町と企業を活性化する「競わない地方創生」』に議員一同参加。

### ●講師が複数の視点から体験した地方創生を解説

講師の久繁 哲之介（ひさしげ てつのすけ）氏は、『地域再生の罫』や『商店街再生の罫』などの著書で知られています。IBM、自治体のアドバイザー、実家の飲食店など、いくつもの経歴をお持ちです。

### ●地方創生は『量より質』、『価格競争よりも共感』

『量を追うと低価格と効率の競争になり、強者＝大都市・大企業だけが勝つ』ことを学びました。観光地としての新島村としては、大量生産・薄利多売の戦略ではなく、その土地の魅力・作る人・売る人・買う人とのつながりから生まれる、共感や物語を軸に戦略を組み立てるのが望ましいと理解できました。

### ●地域の中でお金が回そう！

都市型の『効率まちづくり』では、チェーン店が全国から安い物を仕入れて低価格で販売するような戦略になるため、地域経済循環率が13%と低くなっています。一方で質を重視した『日本版スローシティ』ともいえる戦

略では、地元の個人店が地元の良い物を高価格でも仕入れて販売するので、地域経済循環率が45～80%と高い数値になっています。たとえ商品が价格的に高くても、共感によって購買が促進され、商品が地域の価値を高め、さらに売上の大部分が地域経済に還元されていきます。

※スローシティとは、地域ごとの特色を認め、効率や速さではない悠々自適で豊かで幸せな暮らしを作る取り組みです。

### ●質とはコミュニティの絆・共感だが、しがらみが強いと衰退する

濃いコミュニティ（主に島のような濃い村型社会）には、短所として“しがらみ”があり、長所として“絆”があります。この絆がすなわち価値でもあり、人と人同士の協働が生まれ共感するから商品を購入してもらえます。

一方で、薄いコミュニティ（主に都市型社会）では、短所として“孤立”があり、“長所として自由や効率の良さ”があげられます。ここで競争が起こり、低価格（便利だから）商品を購入する、とまとめられています。

まさに、一長一短、どちらかだけでも良くないことがわかります。豊かな自然と人間関係をもった村型の社会には、国内だけでなく外国人観光客からも注目が集まってきています。地域とのふれあいを求めるお客様への“おもてなし”のために、断れない人間関係（＝絆）で仲間に協力をお願いすると疲れてしまうので、自然と集まりたくなるテーマや趣味を使って自発的な参加者を募り、お互いに交流を楽しむような工夫も学びました。

### ●非効率がゆえの地方創生・地域活性

都会と同じことをやっていると立ちゆかないことを、豊富な事例や現場からの知見をもって学ぶことができました。このような考え方は、地域おこしの現場や研究の場でも少しずつ広がって来ておりますが、議員研修のテーマとして政策立案のために改めて議員一同で共有できた意義は大きいと思います。

表：効率まちづくり vs 日本版スローシティ

理念＝政策	効率まちづくり	日本版スローシティ
コミュニティは	うざい、しがらみ	素晴らしい価値
店の種類は	全国チェーン店	地元の個人店
仕入れ先は	全国から安い物	地元の良い物
重視すること	低価格、量を売る	高価格、共感
地域経済循環率	13%	45 - 80%
利益を得る者は	大都市、大企業	小都市、小企業

都市型社会の価値観に代表される『効率まちづくり』と、持続可能な社会のために新しく農村型社会の良さを見直した『日本版スローシティ』の考え方が対比されています（講師講演資料と『日本版スローシティ』第三章から引用）。

# ● ● 議長 の 四 季 報 ● ●

- 4 月 6 日 新島小学校入学式に出席
- 4 月 7 日 都立新島高校入学式に出席  
新島中学校入学式に出席
- 1 4 日 阿土山にて「電力系統出力変動対応技術研究開発事業」実証設備  
開所式に出席
- 2 6 日 村長と全議員で防衛省防衛装備  
庁と北関東防衛局を表敬訪問
- 3 0 日 海上安全祈願祭に出席
- 5 月 9 日 友好町村の日の出町議会議員及  
び副町長が来島（10 日まで）
- 1 6 日 東京都町村議会議長会と平成  
2 9 年度第 1 回定期総会・東京  
都町村議会議員講演会に出席
- 1 7 日 議員視察研修にて伊豆市議会を表敬訪問
- 1 8 日 議員視察研修で天城温泉プールを見学
- 1 9 日 下田市黒船祭交流会に出席
- 2 0 日 下田市黒船祭祈念式典に出席
- 2 1 日 四島少年柔剣道利島大会に出席
- 2 2 日 新島村防災会議に出席
- 2 5 日 新島村商工会通常総代会に出席
- 3 1 日 平成 2 9 年全国町村議会議長・副議長研修会に出席
- 6 月 5 日 平成 2 9 年度大島支庁管内都事業説明会に出席
- 6 日 第 2 回議会運営委員会に出席
- 8 日 天有別当墓参講に出席
- 1 3 日 平成 2 9 年新島村議会第 2 回定例会（14 日まで）



阿土山の風力発電所前にて

## 編 集 後 記

都議選直後の 7 月 4 日に、現広報編集委員会としては二回目となる広報編集の研修会に参加してきました。

見出しの整理や写真への説明など編集上の工夫も少しずつ定着してきました。また、一般質問以外の議員の仕事や意見を、より広くお伝えできるような改善を検討中です。次号でその成果をお伝えしたいと思います。

今後とも皆さまのお声を頂ければ幸いです。



議会だよりのクリニック（診断）を受けた町村のひとつ、福島県・桑折町議会の表紙（実物はカラー写真）。

● 広報編集副委員長 木村 諭史